



インダストリーエンゲージメントワーク ショップ報告

日本電信電話株式会社 研究開発マーケティング本部 研究企画部門
R&D推進担当 標準化推進室

やまもと ひろし
山本 浩司



1. ワークショップ開催の経緯

ITU-Tと産業界の関係強化はITU-T尾上局長の選挙公約の柱の一つでもあり、実現に向けた具体的な取組みが模索されていた。2023年6月に開催されたTSAG*において、具体的な活動としてワークショップを開催することが決議されるとともに、リーダーのDidier Berthomieux氏（Nokia、フィンランド）と各地域から各2名ずつ指名された委員からなるステアリングコミッティが組織され、ワークショップの目標設定や具体的なプログラム検討が開始された。アジア太平洋地域からは筆者とDao Tian氏（ZTE、中国）が選ばれ議論に参画した。

ステアリングコミッティでは、単にプログラム構成を考え

るだけでなく、インダストリーエンゲージメントの現状分析や、将来ビジョン、それらを踏まえた講演テーマ選定などが行われた。

最終的には表に示す講演プログラムを策定することができたが、最大の難関となったのは講演者の選定で、各業界や団体の有識者を集めつつ、地域／性別／年齢などのバランスに非常に配慮しつつ、ワークショップ全体で当初想定した15名程度の講演枠に対して50名近い講演候補者をリストアップするなどの準備を行った。当初は講演の承諾を得られない可能性を懸念していたが、実際に打診を始めると大半の候補者から快諾の反応があり、嬉しい誤算であった。公的標準化機関としてのITU-Tが持つ力を改めて認識した。

■表. ワークショッププログラム

Welcome • Glenn Parsons, ITU-T Rapporteur on Industry Engagement and Metrics ; Principal Standards Advisor, Ericsson Canada : <i>Opportunity Statement and Goals of the Workshop</i>
Keynote Address • Seizo Onoe, Director, ITU Telecommunication Standardization Bureau
Keynote Address • Ulrich Dropmann, Head of Standardization and Industry Environment, Nokia, Finland
Current Perspectives on Industry Engagement The purpose of this session was to provide the background necessary to understand the scope of the opportunity available to increase industry engagement in the ITU-T. Session Chair : Didier Berthomieux, Chair of Workshop Steering Committee ; Head of Standardization Office, Nokia, Finland Presentations : • Bruce Gracie, Chair, WTS-A-20 : <i>Scene setter on how industry can engage in ITU-T</i> • Xin Chang, VP Standardization and Industry Engagement, Huawei, China • Stephen Palm, Senior Technical Director, Broadcom, United States • Eliot Lear, Principal Engineer, Cisco Systems, United States • Jun Shan Wey, Distinguished Engineer, Verizon Communications, United States Followed by a panel discussion with Uwe Baeder, Director Public Affairs, Rohde & Schwarz, Germany and the presenters (on site).
Metrics and Industry Engagement The purpose of this session was to understand how to measure the impact of industry engagement. Session Chair : Hiroshi Yamamoto, Director, Head of Standardization Office, NTT Corporation, Japan Presentations : • Christopher Clark, Head, Marketing and Partner Relations Division, ITU • Hideyuki Iwata, President, Telecommunication Technology Committee (TTC), Japan • David Law, Chair, Standards Board, IEEE Standards Association, United States ; Distinguished Technologist, Hewlett Packard Enterprise, United States Followed by a panel discussion.

* TSAG : Telecommunication Standardization Advisory Group（電気通信標準化諮問委員会）。ITU-Tの標準化活動を監督し重要事項を審議する上位の意思決定機関。



Value Proposition for Industry Engagement

This session reviewed the current ITU-T value proposition and explore ideas to enhance the ITU-T brand to attract Industry to lead/participate/grow standardization work in the ITU-T.

Session Chair : Arnaud Taddei (Global Security Strategist, Broadcom Europe, United Kingdom)

Presentations :

- Bilel Jamoussi, Deputy to the Director, ITU Telecommunication Standardization Bureau
- Per Beming, Head of Standards & Industry Initiatives, Ericsson, Sweden
- Graeme Burns, Partner-Tech, Media & Telecom (TMT) and Digital, Boston Consulting Group, Switzerland
- Judy Zhu, VP Standardization, Alibaba, China
- Xiaojia Song, Researcher, Artificial Intelligence and Intelligent Operations Center, China Mobile Research Institute, China
- Debora Comparin, Standardization Expert, Thales Group, France

Followed by a panel discussion with Ulrich Dropmann (Head of Standardization and Industry Environment, Nokia, Finland), Bret Jordan (Chief Security Strategist, Afero, United States) and the presenters (on site).

Standardization Process and Industry Engagement

This session was focused on the processes used to start, progress, approve, and publish Recommendations.

Session Chair : Scott Mansfield, Standards Researcher, Ericsson Canada

Presentations :

- Malcolm Betts, Consultant, ZTE Corporation, China
- Kam Lam, Senior Director, China Information Communication Technologies Group (CICT)
- Paul Doolan, Infinera Corporation, United States

Followed by a panel discussion.

Workshop Summary, Outcomes and Next Steps

Workshop Session Chairs summarized the discussions and provide outcomes of their sessions. Highlights of the draft workshop report were reviewed and discussed. An outlook on next steps was provided.

Session Chair : Glenn Parsons, ITU-T Rapporteur on Industry Engagement and Metrics ; Principal Standards Advisor, Ericsson Canada

Close of workshop

2. ワークショップ当日の様様

紙面の都合から、キーノートスピーチと筆者が議長を務めたSession2（インダストリーエンゲージメントの指標）について紹介させていただく。

2.1 ITU-T尾上局長によるキーノートスピーチ

過去40年間の電気通信業界の標準化において最も大き



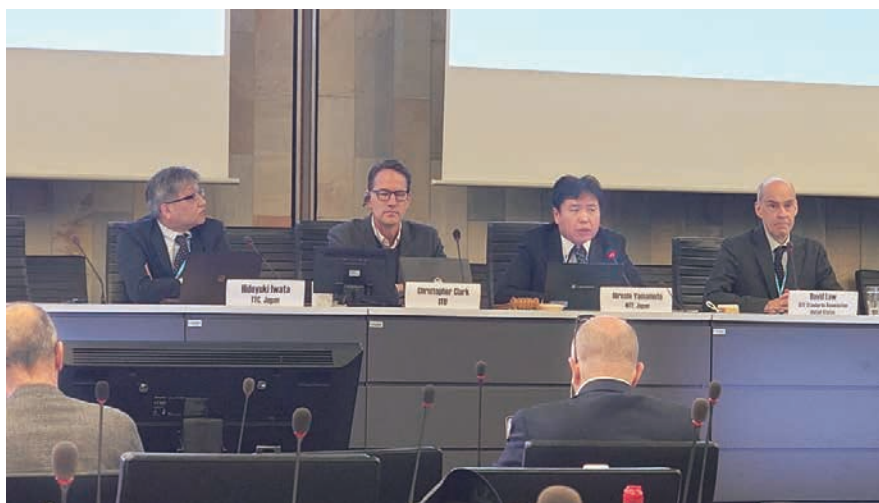
■ 図1. 尾上局長

な成功の一つは、モバイル分野の標準化において6つの異なる地理的標準に分かれてしまっていた状態から統一された1つの世界標準に移行した成功例を引き合いに、下記に示す信念とそこに向けた本ワークショップへの期待が述べられた。

- －標準化の価値は標準の実装と広範な普及によって得られる。
- －業界は標準の実装において重要な役割を果たす。
- －標準化は、ビジネスが市場で成功するための強力なツールである。
- －標準化は、手頃な価格で自分の要求を満たす世界を構築するための強力なツールである。

2.2 Ulrich Dropmann氏（Nokia、フィンランド）によるキーノートスピーチ

Dropmann氏は、地政学的な緊張の中で世界標準を定めることの重要性を強調し、国連機関としてITUは国際標準化の最適な場の一つであると強調した。しかしながら、ITU-Tは多くの標準化団体の一つにすぎず、この状況におけるITU-Tの役割をより適切に定義する必要があるとの考えも示した。市場は伝送系とアクセス系及び映像符号化の



■ 図2. Session2

分野においてはITU-T優位性を認めている一方、クラウド、プロトコル及びセキュリティに関しては、ほとんど採用されていないことも懸念材料として示した。

今後ITU-Tの関与が期待される領域として環境、量子ネットワーク、メタバースを挙げ、またイノベーションの好循環を促進するための鍵として知財ポリシー整備の重要性についても触れた。今後に向けて、ITUは他の標準化団体（フォーラム等）での技術的成果を活用して優良研究課題における地位の維持向上を図りつつ、課題の残る研究課題については効率性を評価するための意思決定プロセスと指標を改善する必要があると述べた。

2.3 Session2（インダストリーエンゲージメントの指標）の模様

Session2は議長（筆者）の進行で3名の有識者が登壇し、その後パネルディスカッションが行われた。各発表のポイントと、パネルディスカッションのポイントを紹介する。

■ 講演1

講演者：Christopher Clark, Head, Marketing and Partner Relations Division, ITU

講演題目：“Industry participation trends and Internal Tracking”

この講演では、ITU-Tが内部で使用しているエンゲージメント指標とその活用状況並びに最近のメンバー参加傾向の概要が紹介された。前半では、ITU-Tによる会員のエンゲージメントの定量化とその追跡に関する取り組みが紹介された。所属会員の属性情報や直近のイベントへの参加状況

などの情報を基にエンゲージメント指数を算出し、ダッシュボードを作成することで追跡を可能にしているなどの取り組みが紹介された。後半では、以下のようなメンバーの参加傾向が紹介された。

- ITU-T産業界の参加は過去最高に増加している。
- 中小企業、地域バランス、発展途上・先進国など、会員構成が多様化している。
- 参加と寄書も全体的に増加しており、特にアジア太平洋地域の増加が最も顕著である。

■ 講演2

講演者：Hideyuki Iwata, President, Telecommunication Technology Committee (TTC), Japan

講演題目：“Proposing Metrics and Industry Engagement through standardization activities at TTC.”

この講演では、日本国内の標準化団体であるTTCにおけるITU標準化の取り組みとその活用状況について紹介された。国内標準のダウンロード数と、ITU-Tへの提案に関する定量的な値が紹介され、これらの分析を通じて、国内組織においてローカライズが進められる技術分野の傾向とダウンロード数が業界の関心を把握する有効な尺度となり得ることが示された。また、TTCでは様々なワークショップも開催しており、ワークショップの参加者の動向は業界の関心を知る有効な手段となることも紹介された。

■ 講演3

講演者：David Law, Chair, Standards Board, IEEE Standards Association, United States ;



Distinguished Technologist, Hewlett
Packard Enterprise, United States

講演題目: “Industry Metrics”

この講演では、IEEEにおける標準化活動の最新の傾向と、産業界エンゲージメント指標に関するケーススタディに基づく考慮事項が紹介された。最近の活動の例として、人工知能シリーズであるIEEE 7000シリーズがAIシステムにおける個人データと安全性を保護する方法に取り組んでいること、医療機器とコンピューターシステム間の通信を可能にしてバイタルサイン情報の自動キャプチャを可能にするIEEE 11073などの取組みや、その他の最先端の取組みが紹介された。後半では、IEEE SAボードの視点から産業界エンゲージメントとその指標に関する議論が紹介され、勧告ダウンロード数だけでは産業のニーズや真の価値、重要性や難易度を誤って判断する可能性があるとの指摘や、業界への関与を測定する方法論についての課題意識などが紹介された。

3. ワークショップのまとめと今後に向けて

本ワークショップを所管するTSAGラポータグループリーダーのGlenn Parsons氏（エリクソンカナダ、カナダ）より下記の総括があった。

－ITU-Tには、国際標準を作成するための安定で成熟したプロセスがあるものの、これは一部のアジャイル ソフトウェア アプリケーションにとっては遅すぎる可能性があり、これが次世代を引き付ける際の障害となる可能性が

ある

- －ITU-Tは加盟国と良好な関係を築いているものの、ITU-Tが対象としている分野の専門家や能力は、焦点を絞ったソリューションに特化したフォーラム等に取り込まれているのが現状である
 - －産業界がソリューションを特定できるよう、ITU-Tのエンドツーエンドの性質をさらに活用する必要がある。ただし、作業項目は顧客の要件に基づく必要があり、ITU-Tは業界の製品管理担当者がこれらの要件を話し合う場を提供する必要がある
 - －ITU-Tには、国際標準を作成する方法がいくつか用意されているものの、地域ごとの多様な要件や世界的な互換性の評価がなければならず、また新規検討着手のハードルが低すぎる等の課題もある
 - －ITU-Tの製品と価値に対する認識がほとんどないため、産業界は能力のある他のフォーラム等に引き寄せられている現状。ITU-Tの内容をマーケティング及び宣伝することで、これを変えることができると期待
 - －指標（参加数、寄書数、ダウンロード数）は定量的な指標になり得るものの、ITU-Tの産業界への影響は定性的な評価にとどまらざるを得ず、これらをどう客観的に捉えるかも課題
- 全体総括として、産業界から有益な情報が提供され、多くの参加者からこのワークショップは成功であったとの声が聞かれた。また、このようなワークショップを今後も開催すべきとの提案がなされ、満場一致で合意された。

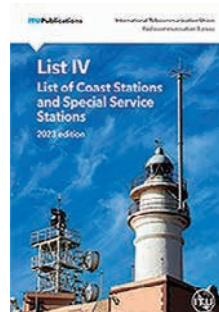
国際航海を行う船舶局に必須の書類 好評発売中！



-New!
船舶局局名録
2024年版



海上移動業務及び
海上移動衛星業務で使用する便覧
2020年版



海岸局局名録
2023年版

お問い合わせ: hanbaitosho@ituaj.jp

